

令和6年度 第3回岡崎城跡整備委員会会議録

開催日時：令和7年1月27日（月）午後2時00分～午後4時00分

開催場所：岡崎市役所 福社会館2階 202号

出席委員：6名

瀬口哲夫委員（委員長）・杉野丞委員・三浦正幸委員・丸山宏委員・奥田敏春委員・堀江登志実委員

欠席委員：1名

中井均委員

説明のために出席した事務局職員：11名

教育委員会：二村雅志教育部長

社会教育課：田中典子課長・原林基昭副課長

遠藤研吾岡崎城跡係係長・久野千秋主事・平山優主事

都市基盤部：本多徳行専門監

公園緑地課：津呂幸治計画整備係係長、森本涼太技術員、
近藤淳公園活用係係長、森大輔主査

傍聴者：あり（1名）

議事内容

議題

- （1）龍城堀における発掘調査成果及び整備について
- （2）岡崎城跡におけるサクラの植栽について
 - ・岡崎城跡（岡崎城公園）植栽管理計画サクラ管理計画編（案）について
 - ・令和6年度におけるサクラの植栽について

報告

菅生曲輪の一時利用について

議事の要旨

議題

- （1）龍城堀における発掘調査成果及び整備について
事務局：配布資料1－1、1－2に基づき説明（事務局）
- 【質疑応答】

委 員：園路と石垣の天端と高低差があるが、どう処理するのか。かなりかさ上げして出っ張るようにイメージされる。構築物として大きいのが、大丈夫か。

事 務 局：1区は45 cm、2区は60 cm弱で、2区の方が1区より10 cm程大きい。構造物自体が奥まっておりますので安定勾配を取ったうえでも高低差は解消できると思う。

委 員：斜面になるということか。

事 務 局：インターロッキングの部分は水平になる。

委 員：園路から高低差なく流れていくイメージか。

事 務 局：その通り。

委 員：1区の方に大きい石があるが、あれは撤去するのか。

事 務 局：残す予定である。灯籠等を撤去する際に石の撤去も検討したが、下まで入っており、動かそうとすると大穴が開く可能性があるので断念した。

委 員：栗石の込め方はこれでいいのか。図を見ると石垣の石側に圧力がかかっており、平場を作って施工すべきだと思うのだが、どうか。

委 員：このままだと石垣に重力がかかり石垣がすべり出す。一般的には段切りにする。

委 員：施工方法について、石垣の専門家に相談したのか。

事 務 局：この図は提示していないが、現地で施工イメージは伝えている。

委 員：断面図は見たことなかった。通常、栗石の一番下の面は、かなり面的に広く、平らにとる。上に行くに従って幅は狭くなる、もしくは同じ幅になる。

事 務 局：下の20 cmくらいの所は遺物包含層だと認識しているので、例えば小段を作って段々と上げていくと、Ⅱ層の下面くらいからは水平に切れると思う。

委 員：一番下は近代の層か。

事 務 局：Ⅲ層は遺物から考えると近世末ごろだと考えられる。

委 員：張芝工とあるが、筋芝工にすべき。また、背後は刃金土にすべき。刃金土にする理由は、雨が降っても崩れないためである。張芝だとずれてくる。インターロッキングは仕方がないと思うが、模様のない、無彩色のものでやった方がいい。低木を植えるというのは、現在の植栽の続きを植えるということか。

事 務 局：植栽管理計画で、外来種を排除し在来種を選定することになっているので、根の広がりを抑え上部が大きくなりすぎず、それにより景観の阻害も回避できるという事で、ヒメツツジを候補としている。

委 員：ここに既に植わっているのは何か。

事 務 局：同じである。

委員：クマザサのほうが管理は楽なのではないかと思う。むしろ植え替えてもいい。

委員：刻印のある石が発見されたという事だが、この刻印について詳しく教えてほしい。また、これは石垣の中でそのまま使っていくのか、展示するのか決まっているのか。

事務局：扇の文については、拓本と写真撮影、3Dによる計測をしている。扇の文だと、幸田の深溝松平を想像させるが、直接関連付けてよいか検討しているので、今回はまず図形の発見例として報告し、これから研究していく。刻印石の活用について、それ自体は石積みとして利用するので実物を見られることはないが、拓本や写真なので広く見てもらえるようにしていきたい。

委員：見ていただくというのは、その石そのものを戻すということか。

事務局：別の石を差し替えて、刻印石は残しておくことも考えたが、現状では極力石垣撤去前の状態に戻す予定なので、刻印石も石垣に戻し、拓本や写真を提示していく。刻印石自体は見られなくなる。

委員：現場で展示しない理由は何か。これから整備するこのエリアで石を展示して説明をした方が、石垣の価値を高めるのではないか。

事務局：石垣の露天展示をすると、花崗岩なので風水害によって摩耗するだろうと思った。

委員：刻印石の大きさは分かるか。

事務局：60 cm×30 cm×30 cm くらい。

委員：築石としては比較的小さいのか。

事務局：小さいと思う。

委員：この刻印石は、転落して使っていない石なのか、それとも石垣の中に入っていたのが崩れたのか。

事務局：石垣の中に入っていた石である。崩れてはいなかったなのでそのまま取り外した、もともと使っていた石である。

委員：使っていた石なら戻すしかない。刻印があるからと言って外すと、膨大な量になり、片っ端から石を変えることになる。解説板に写真を付けて説明すればよい。

委員：刻印石が出てきた近世末期の石は、深さでいうとどのあたりか。

事務局：刻印石自体は7石出てきており、出土した高さはまちまちである。中には2段目から出てきているのもあるので地表面から保護層30 cm下から確認されているものもある。調査区の1番底面、180 cm掘り下げたものもある。

委員：断面図で見るとだいたいどのあたりが層の境目か。

事務局: 上から3石目の半ばくらいがⅠ層とⅡ層の境目くらい。Ⅱ層は便宜的に分けているのでⅠ層とそんなに変わらない。土質上変化があったので分けている。

委員: 裏込め石の幅はどれくらいになるのか。

事務局: 仮に段積みになると広いところで奥行きが2 m、Ⅲ層が60cm～80cm。今後の施工方法について、斜面に石を積んでは滑るというのは理解したので検討する。

委員: 一番下に60cmくらい水平に積み、その幅を維持して上がっていくのが理想である。見切りに不織布を入れ、裏込めは土砂を転圧して詰める。この石垣は低いので60cmあれば十分である。

委員: 積み直すなら新しい図面が必要である。

委員: 図だと裏込め石が大きく見えるが、実際も大きいのか。

事務局: 現地で使われているもので小さいものと5 cmくらい、大きいもので20 cmくらい。

委員: 一般的な大きさだと20 cmくらい。5 cmだとくずと言われる。裏込めというのは1個ずつ丁寧に詰めるから20 cm～30 cmの石を使う。

事務局: 現地で出てきた栗石はどうすればよいか。

委員: 使える物は使えばよい。

委員: 展望スペースの手すりについて、木がいいと思う。最低、手すりの所は木にしてほしい。すべて鉄はやめてほしい。

事務局: 擬木ではなく、本物の木か。

委員: 擬木でも構わないが、触る部分は木にしてほしい。

委員: 龍城堀の西側に転落防止のコンクリートの柵があるが、あれは似つかわしくないなので、木が良いと思う。

事務局: 水堀の上であり、水の影響で腐るなどを懸念しているが、どうか。

委員: 雨が直接かかる場所と、かからない場所で耐用年数が違っていて、雨がかかる場所で何も処理をしないと耐用年数10年未満。腐食防止のための処理をすれば15年から20年。それくらいで取り換えるなら木の方がよい。メンテナンスのことを考えて判断すべき。

委員: メンテナンスはしっかり行ってほしい。

(2) 岡崎城跡におけるサクラの植栽について

- ・岡崎城跡（岡崎城公園）植栽管理計画サクラ管理計画編（案）について
 - ・令和6年度におけるサクラの植栽について
- 事務局：配布資料2－1、2－2に基づき説明（事務局）

【質疑応答】

委員: 何本植えて、何本伐採するのか。

事務局: サクラを 146 本植栽する。サクラを 33 本、サクラ以外を 143 本伐採する。

委員: 計画の目的として何のためにサクラを植えるのか。ほぼ現状を維持していくのか、サクラを伐採した箇所に植えていくのか、景観のことを考えて植えたいと公園部局が考えた場所に植えるのか。最初の印象だと、「枯れていくから植え替えていく」というイメージだったが、話を聞くと、「サクラの数を増やす」計画になっている。最初の目的と、植え替えていく本数のバランスをどう考えているのか。

事務局: A1 地区は本数を増やさない方針である。また、平成 29 年から「さくらの利活用計画」というものを出し、現状の本数よりも植えていきたいという市側の希望があった。菅生曲輪、河川区域のサクラはいずれ無くなってしまうので、最終的には現状とほぼ同数か、ほぼそれ以下になると思われる。

委員: 今後枯れるものや、様々な計画上伐採を行うものもあるとのこと、新規に植えないと減ってしまうことは理解した。ただ、新規で植栽するものは何年計画なのか、樹木の経年的な移行がこの計画には書かれていない。サクラの本数を増やすのか、現状維持なのか、どのような方針か。

事務局: 一瞬は増えるが、最初から花が咲くわけではない。10 年 20 年経つ間に減っていく。今何もやらなければサクラがなくなってしまう。樹勢の弱いサクラはなくなることを見越すと、今と同じくらいになると思う。

委員: 今植樹しておけば、10 年後でも今と同じ景観が保たれるということか。

事務局: ピッチも、本来は 10 メートルが望ましいが、成長を待ちながら間引きをする。それも計画に入れる予定。

委員: 植えて何年くらいで開花するのか、書かれてあれば分かりやすかった。10 年間の移行のなかでどのような景観が維持されるか、あるいは今やらないとこの景観が維持できないというような記載があると分かりやすかった。

委員: 岡崎城跡は、保存活用計画もしくは整備基本計画は作ったか。史跡指定地における新たな植栽については保存活用計画に書くことになっている。もし作ってないなら個別に審査する必要があるが、その計画さえあれば植えていいところと植えてはいけない所が書いているはず。

事務局: 整備基本計画がある。

委員: 整備基本計画に史跡の本質的価値が書いてあり、その場所は保存としないといけないので、新たな植栽はしてはいけないとなっていると思う。今回でいうと、本質的価値のあるお堀の土手に植樹は本来できない。整備基本計画の通りにこの計画ができていないならいいが、できていないなら直さないといけない。計画に即しているか。

事務局: 内郭の、A1は植栽しないことになっている。

委員: 計画に抵触しないなら問題ない。

委員: 弘前城で行っている維持管理計画をパイロット的にどこかの地区で弱っているサクラにできるかどうか検討してほしい。岡崎市もサクラに対して真剣なら人材を育成しなければならない。過去に植えられたサクラをどうしようかという視点がない。今樹勢の弱っているサクラをどう再生できるかというプロジェクトを行ってほしい。また、樹勢回復したら、その回復過程を観察してほしい。サクラを植えることが目的にはならない。

事務局: 植樹と管理の両輪でやっていく。

委員: 「桜花咲プロジェクト」は減少したサクラの維持管理のためではなく、危機に瀕しているものを何とかしようというものか。

事務局: 新しいサクラを植えるのと、毀損木の伐採、維持管理に活用する。

委員: 今年度進める部分は何か。

事務局: 資料2-2の部分である。

委員: サクラは成長すると遺構面に影響を及ぼすこともあるので、慎重に行った方がよいと思う。50年先を見越した考えは大切である。植栽にあたってどれくらい掘るのか。

事務局: この場所の遺構面は低いが、植樹にあたっては文化財部局の調整をとって行っていく。資料2-2の場所は、平成28年に保護審で了解をもらった。ただ最下段は、サクラの主根が1.2メートルという想定であるので1メートルくらいの所に防根シートを敷かないと遺構面を傷つける恐れがあるという認識はしている。

委員: 防根シートの記載がない。また、サクラを植えすぎだと思う。

事務局: 成長過程に従って伐採する。

委員: 伐採計画を書いてほしい。最初から徐伐するのではなく、既存木の樹冠投影を行い、将来的に大きくなる樹冠があれば植えるのをやめる。

委員: 史跡だけの話ではなく、広い意味で、例えば総曲輪の範囲で考えてみほしい。現在、桜馬場にはサクラがない。備前曲輪の昔の絵図を見るとサクラやウメなどの記載があり、昔から岡崎公園の中にサクラはある。

報告

菅生曲輪の一時利用について

事務局: 配布資料3に基づき説明(事務局)

【質疑応答】

委 員：掘削可能深度というのは、例えば黄色の場所は 16.33 メートルの所まで可能、という意味か。

事 務 局：その通り。黒字の数字が現在の標高であるので、その差分は掘れるということである。

委 員：何をやってもいいことになるのではないか。

事 務 局：イベントなど期間限定のものに限る。

委 員：市の史跡にふさわしいイベントに限る、という一文があった方がよいのではないか。

委 員：「多目的広場」として利用を推進するのは感心しない。

事 務 局：ご意見は承知した。一方でここは「岡崎城公園」という側面があり、市民の憩いの場としての役割があり、文化財の遺構には影響のない範囲での活用を市では行っていきたい。

委 員：文化財部局であるので、文化財としてふさわしくないものに対しては意見を求めるという態度はあってほしい。

委員の提言

岡崎城の現状、岡崎城の本質的価値、岡崎城の観光、商業的な利用、岡崎城整備の方向